

スポンサードシンポジウムSS2

製薬協シンポジウム 糖鎖工学から抗体医薬開発まで

New Generation of Antibody Technology and Monoclonal Antibody Therapy

光島 健二¹, 岡崎 靖²

¹製薬協研究開発委員会専門副委員長, ²製薬協研究振興部長

最近の医薬品開発状況をみると、新規低分子化合物が減少し、バイオ医薬品、とりわけ抗体医薬が目覚ましい勢いで承認数を増している。抗体医薬は、がんやリウマチのような治療が難しい領域でも従来にない効果を示しており、アイデア次第ではさらに多くの領域での治療薬が期待されている。既に世界の売り上げトップ20の中にも多く抗体医薬が顔を出し、医療現場では主要な医薬品としての地位を確立している。

最近、日本の大手製薬企業は抗体医薬関連のバイオベンチャーを買収し、本格的に抗体医薬開発に参入してきた。また、日本の北海道の抗体医薬ベンチャーが海外の製薬企業と提携したことは、衝撃的なニュースとして報じられた。

本シンポジウムでは、抗体医薬の開発経緯、開発の実例、さらに現状の課題を解説するとともに、将来の個別化医療をも視野に入れた次世代抗体医薬の開発について紹介する。また最近、糖鎖工学技術を応用した抗体医薬の開発が注目されており、抗体依存性細胞傷害活性を増強させる糖鎖工学技術として期待されるポテリジェント技術についても解説する。